

田中康夫の



神学論争

36

「多目的ダム」「子宮頸がんワクチン」「オスプレイ」「原子力発電所」etc. 不毛な「神学論争」が囂さわましい極東の島国です。

その日本の河川工学では、他国

には存在しない「基本高水流量」「貯留関数」なるガラパゴス理論が跳梁跋扈。方程式に数値を入れると、例外なくダムを造らざるを得ない答えが導き出される摩訶不思議

思議な「概念」です。

ダムさえ造れば洪水を防げるとの「幻説」を信じて疑わぬ日本のその洪水を防ぐべく昭和27年に計画された八ツ場ダム本体工事着手は昨年。64年間に如何なる護岸補強、河床掘削、森林整備が実施されたか、詳らかではありません。

「新しいワクチンのため、子宮頸がんそのものを予防する効果はまだ証明されていません」。厚生労働省がHPで「告解」する「子宮頸がんワクチン」は、より正確には子宮頸がんを誘発するHPVⅡヒトパピローマウイルスに感染するのを予防するワクチン。而も、製造・販売するグラクソ・スミスクライン、MSDⅡ旧メルク万有製薬の2社は、「効用」を發揮するのは全部で100種類以上も存在するHPVの僅か2〜4種のみと「告解」しています。

故にイギリスでは早期発見・早期治療の大原則に基づき、性交を経験済みの女性を対象に無料検診を徹底。検診担当は医師に留まらず、技術研修を終えた同性の看護師が主体。8割台の検診率を誇ります。他方で自己負担の日本では2割台に留まります。

「日本記者クラブ」加盟各社の報道とは異なり、国防総省内に編集部を構える「星条旗新聞」が4月17日付けで、「日本政府の要請に基づき」と「告解」したオスプレイ2機が岩国基地から搬送したのは段ボール200個。岩国―熊本は山陽・九州自動車道経由で350km。直線ならば更に短い距離。

航統距離3900kmを誇るオスプレイMV-22よりも遙かに大量積載可能なチヌークCH-47Jを、自衛隊は70機保有しています。が、その大半は「熊本・大分震災」直後から全国の基地で待機状態。航空事故や鉄道事故は、一定の場所、一定の時間、一定の社会グループに「悲劇」は留まります。原発事故は、社会的にも地理的にも時間的にも、更には陸上・海上、空中・地表・地中・水中を問わず、被害が連続・拡大し続ける蓋然性が極めて高く、範囲・濃度・蓄積の何れも変幻自在な「放射能」は無色・透明・無臭。人間の五官が察知し得ぬ極めて厄介な存在です。

「科学を信じて・技術を疑わず」の無謬性むびようせいに立脚する物質主義が20世紀の「心智シンチ」とするなら、脱・物質主義の21世紀は「科学を用いて・

技術を超える」可謬性かびようせいの「心智」を希求すべき。経済は歴史現象。科学は自然現象。何れも同一の条件は二度と起こり得ないのです。

なのに、「社会学」を究めたと自負する御仁に限って、「非社会学、非科学」の「心智」を振り翳す自家撞着に陥りがち。JR東海グループの月刊誌「Wedge」HPで「放射能とワクチン 不安に寄り添う怪しげな『支援者』」と題して対談する「福島出身の社会学者」開沼博氏、「医師・ジャーナリスト」村中璃子・本名中村理子氏は、その象徴的存在です。「エビデンス」も自然現象。60年前に水俣病発生が公式確認された後も、水銀との因果関係は立証出来ぬと巧言し続ける向きが居ました。重篤な副反応と子宮頸がんワクチンの因果関係は存在せずと件の対談で高言する2氏は、ならば少なくとも別の因果関係を推論してこそ「脱・非社会学、脱・非科学」の学徒でありましょう。「イデオロギー」が潰えて久しいにも拘らず、諫言や提言を「市民」という左巻の「妄言」と断じる、弁証法とは凡そ対極の「心智」こそ、時代遅れな痛々しさです。

★次号の月号の発行日は5月22日(第4金曜日)です。